

2022年も 多くの業種で 経費が増加

—2022年農業経営動向分析—

農業を営む日本公庫の融資先を対象に、3力年(2020年~22年)の決算データを集計して、損益の動向や財務指標などを分析し、取りまとめました。

〈稲作〉

個人(北海道)は、経営体当たりの規模は拡大しましたが、売上高は同100.1%と横ばいで推移。材料費の高騰などにより、利益は同92.0%と減少しました。個人(都府県)は、規模は横ばい、売上は同102.4%と増加、利益も同103.1%と増加しました。

法人は、規模は横ばいで推移し、売上高は同93.1%と減少した一方で、営業外収入の増加により利益は同139.5%と増加しました。

〈果樹〉

個人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高も同100.5%で横ばいとなり、利益は同90.9%と減少しました。

法人は、規模は横ばいで推移し、売上高は同112.0%と増加した一方で、利益は同66.7%と減少しました。

〈露地野菜〉

個人(北海道)は、経営体当たりの規模は拡大、売上高はタマネギの価格が前年を上回ったことで同120.9%と増加し、利益も増加して同116.3%となりました。

個人(都府県)は、規模は横ばいで推移し、売上高は同103.9%と増加しましたが、利益は同98.2%で横ばいとなりました。

法人は、規模は拡大し、売上高は同105.1%と増加した一方で、肥料費を含む材料費の高騰により利益は同31.8%まで減少しました。

〈施設野菜〉

個人は、経営体当たりの規模は拡大し、売上高は同104.9%と増加しましたが、利益は同100.0%で横ばいとなりました。

法人は、規模は拡大し、売上高は同101.4%で微増となり、利益は黒字に転換しました。

〈施設花き〉

個人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高は同97.5%に減少、利益も同79.5%に減少しました。

法人は、規模は拡大し、売上高は同102.7%に増加した一方で、労務費・人件費や燃料動力費の増加により利益は同33.3%まで減少しました。

〈茶〉

個人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高は同91.8%と減少、利益も減少して同60.7%となりました。

法人は、規模は横ばいで推移し、売上高は同104.2%に増加した一方で、燃料動力費などの増加により利益は減少して同37.7%となりました。

耕種部門の収益状況

利益は個人で減少、法人で増加

2022年の農業決算は全体として、売上高は増加傾向か前年並みで推移しました。一方で利益は、原材料費などの経費が前年からさらに増加したことにより、酪農などの畜産を中心に低調な推移となりました。

農業におけるそれぞれの経営規模で割った「単位規模当たりの利益」について、直近の年間推移を見ると、畜産において酪農が個人・法人ともに2年以上連続で減益となるなど、厳しい動きが見られました。

まず耕種部門において、

2022年の耕種全体の決算は、個人経営では売上高が前年比103.1%と増加した一方で、利益は同96.1%となり、減少しま

した**表1**。法人経営では売上高が同98.0%と横ばい、利益は同105.5%と増加しました。

主な業種における概況は以下のとおりです。

◆ 露地野菜、施設花きや茶の法人経営は利益が3割台まで減少

表1 耕種部門の収益状況

(金額単位: 百万円)

業種			サンプル数	経営規模		売上高			個人:専従者給与控除前所得 法人:経常利益			(参考) 経常利益+役員報酬		
				2021年	2022年	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比
全体	個人	全国	3,394			30.8	31.8	103.1% ↑	6.7	6.4	96.1% ↓			
	法人		929			95.5	93.6	98.0% →	3.7	3.9	105.5% ↑			
稲作	個人	北海道	65	17.8ha	18.3ha	36.9	37.3	101.1% →	8.7	8.0	92.0% ↓			
		都府県	873	17.4ha	17.6ha	29.6	30.3	102.4% ↑	6.5	6.7	103.1% ↑			
	法人	全国	622	39.8ha	40.4ha	72.1	67.1	93.1% ↓	3.8	5.3	139.5% ↑			
北海道畑作	個人	北海道	60	43.4ha	44.0ha	78.2	72.2	92.3% ↓	21.5	14.4	67.0% ↓			
	法人		41	75.0ha	75.7ha	108.5	104.0	95.9% ↓	15.3	6.9	45.1% ↓			
果樹	個人	全国	321	1.8ha	1.9ha	18.2	18.3	100.5% →	5.5	5.0	90.9% ↓			
	法人		29	4.2ha	4.2ha	76.9	86.1	112.0% ↑	1.2	0.8	66.7% ↓			
露地野菜	個人	北海道	75	9.2ha	9.4ha	66.6	80.5	120.9% ↑	20.9	24.3	116.3% ↑			
		都府県	478	3.0ha	3.0ha	28.5	29.6	103.9% ↑	5.5	5.4	98.2% →			
	法人	全国	89	16.1ha	17.0ha	138.8	145.9	105.1% ↑	2.2	0.7	31.8% ↓			
施設野菜	個人	全国	1,259	4.0千㎡	4.1千㎡	28.3	29.7	104.9% ↑	5.2	5.2	100.0% →			
		うちトマト	467	4.6千㎡	4.6千㎡	31.6	32.4	102.5% ↑	5.5	5.1	92.7% ↓			
	法人	全国	66	15.0千㎡	15.4千㎡	154.6	156.8	101.4% →	-0.3	0.0	黒字転換 ↑			
施設花き	個人	全国	194	5.9千㎡	5.9千㎡	48.1	46.9	97.5% ↓	11.2	8.9	79.5% ↓			
	法人		22	8.7千㎡	9.2千㎡	146.8	150.7	102.7% ↑	4.8	1.6	33.3% ↓			
茶	個人	全国	57	7.3ha	7.3ha	36.5	33.5	91.8% ↓	8.4	5.1	60.7% ↓			
	法人		49	25.7ha	25.8ha	145.2	151.3	104.2% ↑	5.3	2.0	37.7% ↓			
キノコ	個人	全国	12	18.2t	17.7t	20.4	22.7	111.3% ↑	2.5	2.8	112.0% ↑			
	法人		11	441.9t	451.2t	394.4	401.1	101.7% →	-11.5	-15.3	赤字幅拡大 ↓			

◆ ほぼすべての畜産業種で利益が減少

表2 畜産部門の収益状況

(金額単位: 百万円)

業種			サンプル数	経営規模		売上高			個人:専従者給与控除前所得 法人:経常利益			(参考) 経常利益+役員報酬					
				2021年	2022年	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比			
全体	個人	全国	1,079			111.4	113.9	102.3% ↑	9.4	4.4	47.1% ↓						
	法人		760			595.1	627.2	105.4% ↑	20.0	5.0	25.0% ↓						
酪農	個人	全国	609	66.7頭	67.4頭	92.7	94.8	102.3% ↑	8.6	3.7	43.1% ↓						
		北海道	57	80.5頭	85.6頭	108.2	111.3	102.9% ↑	10.5	5.7	54.3% ↓						
		都府県	552	65.2頭	65.5頭	91.1	93.1	102.2% ↑	8.4	3.5	41.7% ↓						
	法人	全国	352	230.1頭	224.4頭	283.8	289.4	102.0% →	4.9	-7.1	赤字転落 ↓				18.6	6.0	32.1%
		北海道	207	259.2頭	249.1頭	297.4	304.0	102.2% ↑	6.6	-4.0	赤字転落 ↓				22.2	11.0	49.5%
都府県	145	188.4頭	189.2頭	264.3	268.5	101.6% →	2.4	-11.6	赤字転落 ↓	13.5	-1.2	赤字転落 ↓					
肉用牛肥育	個人	全国	361	194.4頭	193.1頭	137.1	138.5	101.0% →	10.1	5.3	52.5% ↓						
法人		144	1,277.6頭	1,272.8頭	782.5	799.5	102.2% ↑	22.3	7.7	34.5% ↓	34.5				20.0	58.0%	
養豚	個人	全国	60	146.2頭	146.8頭	118.4	128.5	108.5% ↑	11.7	7.2	61.5% ↓						
	法人		167	734.1頭	742.6頭	717.2	777.3	108.4% ↑	36.4	15.1	41.5% ↓				58.0	36.7	63.3%
採卵鶏	個人	全国	28	48.5千羽	48.0千羽	150.0	148.7	99.1% →	13.2	-0.3	赤字転落 ↓						
	法人		61	368.4千羽	362.7千羽	1,548.3	1,671.1	107.9% ↑	57.1	35.7	62.5% ↓				72.8	50.5	69.4%
ブロイラー	個人	全国	21	53.8千羽	58.6千羽	140.5	157.8	112.3% ↑	8.0	8.3	103.8% ↑						
	法人		36	218.2千羽	224.6千羽	708.7	776.5	109.6% ↑	19.9	14.0	70.4% ↓				34.2	28.6	83.6%

注1) 経営規模、売上高、農家所得および経常利益は経営部門ごとの1経営体当たりの平均値を記載

注2) 増減率はラウンドの関係で数値が合わない場合がある

*個人は農家所得(青色申告の専従者給与控除前利益)、法人は経常利益の値を記載。法人の経常利益は役員報酬等を差し引いた後の数値であるため、個人の農業所得とは別の指標となっている。

役員報酬差引前経常利益の数値は右横の(参考)の値を参照。

畜産部門の収益状況

ほぼすべての業種で減益

次に2022年の畜産部門の決算は、個人が前年比102・3%、法人が同105・4%と、ともに売上高が増加した一方で、利益は個人が同47・1%、法人が同25・0%と、ともに減少しました^{表2}。

主な業種における概況は以下のとおりです。

〈酪農〉

個人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高は同102・3%と増加した一方、飼料を含む材料費の高騰などで利益は同43・1%に減少しました。

法人は、規模は縮小、売上高は同102・0%と横ばいで推移しましたが、飼料を含む材料費の高騰などにより、05年の調査開始から初めて赤字となりました。

〈肉用牛肥育〉

個人は、経営体当たりの規模は横ばいで推移し、売上高も同101・0%と横ばいで推移しましたが、飼料を含む育成費用の高騰などで利益は減少し、同52・5%となりました。

5%となりました。

〈ブロイラー〉

個人は、経営体当たりの規模は拡大し、売上高は同112・3%と増加、利益も同103・8%と増加

直近9年間の利益の推移

畜産などで厳しい現状

農業経営において、直近9年間（2014～22年）の利益、個人は農業所得、法人は経常利益+役員報酬の推移を比較しました。

まず耕種において、稲作は個人（北海道）で減益、個人（都府県）で横ばいとなっています^{図1}。法人は前年度の落ち込みからはわずかに回復したものの、20年以前の水準と比較すると個人・法人ともに厳しい状況が続いています^{図2}。

露地野菜については、個人（北海道）の利益は直近9年間で最高となった一方で、法人では前年に続き減益で、近年で最低となりました。茶については、17年以降悪化していた利益が21年に回復したものの、22年は再び減益となりました。

次に畜産は、酪農が個人・法人ともに2年以上連続で減益となり、過去最低となりました^{図3・4}。

しました。

法人は、規模は拡大、売上高は同109・6%と増加した一方で、飼料を含む材料費の高騰などにより利益は同70・4%と減少しました。

肉用牛肥育、養豚も近年で最低水準となり、厳しい状況であることがわかります。採卵鶏も、個人・法人ともに減益となりました。

結果の詳細は日本公庫ホームページで掲載しています。

（情報企画部 黒川 知洋）

【集計・分析対象等】

●集計・分析対象先

公庫取引先6162先（個人経営4473先、法人経営1689先）

●対象経営部門（農業収入の第一位部門で区分）

耕種8部門：稲作、北海道畑作、果樹、露地野菜、施設野菜、施設花き、茶、キノコ
畜産5部門：酪農、肉用牛肥育、養豚一貫、採卵鶏、ブロイラー

●対象決算期

2020年・21年・22年（法人は各年12月～翌年3月が決算期のもの）

【注】

・文章中の利益の増減に関する表現は、個人経営では農家所得（専従者給与控除前・税引前）、法人経営では経常利益が増加したか減少したかで判断している。

◆ 畜産は減益傾向が2年以上続く

図1 【個人/耕種】単位規模当たり農業所得の推移
(2014~2022年、2014年の数値を100とする)

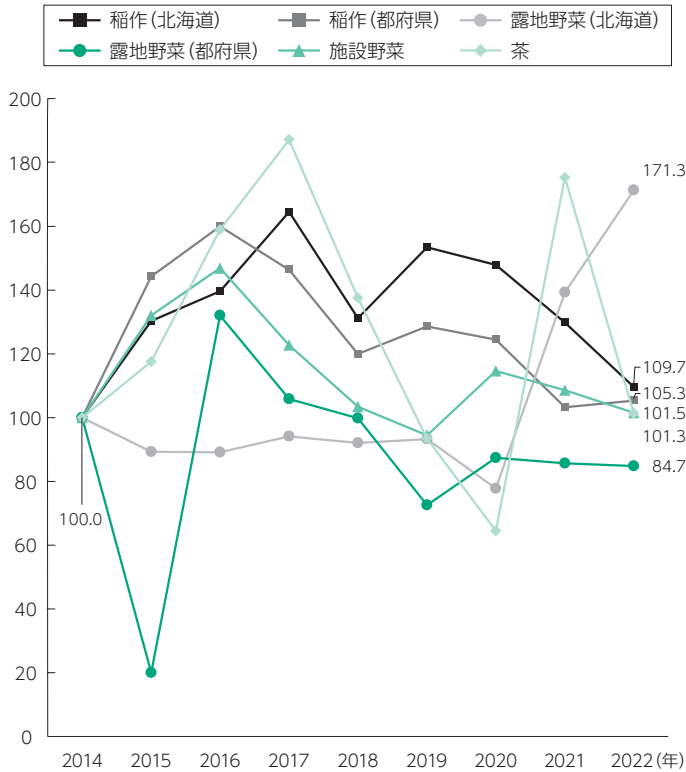


図2 【法人/耕種】単位規模当たり「経常利益+役員報酬」の推移
(2014~2022年、2014年の数値を100とする)

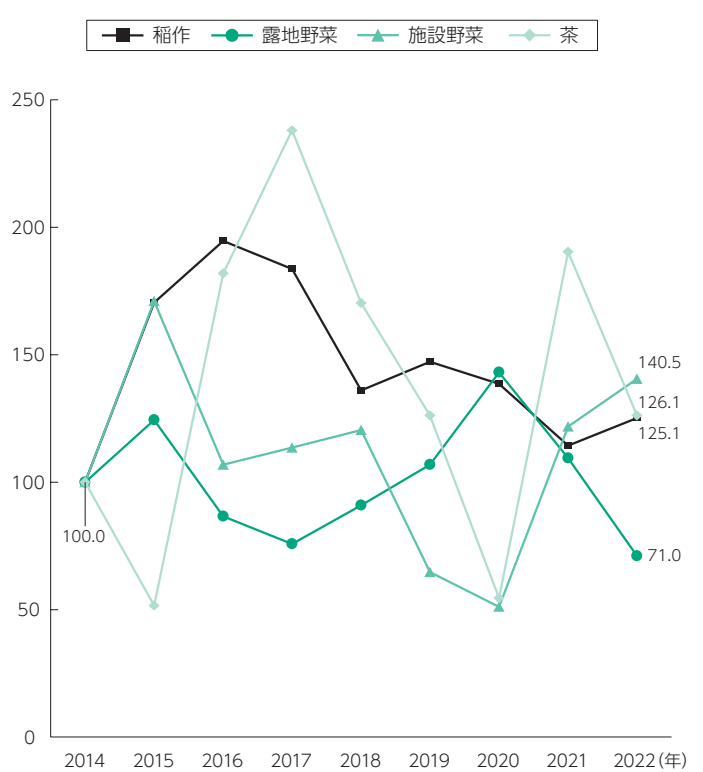


図3 【個人/畜産】単位規模当たり農業所得の推移
(2014~2022年、2014年の数値を100とする)

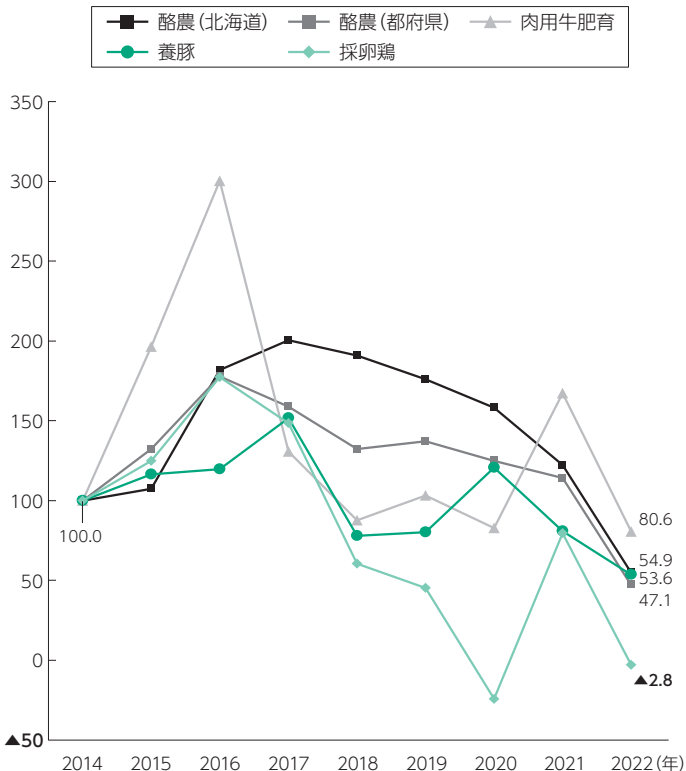


図4 【法人/畜産】単位規模当たり「経常利益+役員報酬」の推移
(2014~2022年、2014年の数値を100とする)

